

平成24年度課題評価結果対応方針

健康福祉部・(衛生研究所)

目 次

1	総括に対する対応方針	1
2	課題評価結果対応方針	
	(1) 事前評価	
	①腸管出血性大腸菌 0157 の系統学的解析による動態の把握	4
	②紅斑熱群リケッチアの浸潤状況調査	5
	③LC/MS/MS による加工食品中のグリホサート分析法の確立	6 - 7
	(2) 事後評価	
	①口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制やメタボリックシンドローム 改善との関係についての研究	7 - 8
	②健康食品中の医薬品成分分析法の検討	9
	③加工食品における有害化学物質検査法の検討ーグリホサート等	10

1 総括に対する対応方針

区分	研究課題名	主な所見事項	対応方針
事前評価	腸管出血性大腸菌0157の系統学的解析による動態の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・他府県との共同研究をどう進めるかが鍵となる。 ・研究成果を県民に還元する手段についても十分に検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、幾つかの他県の地方衛生研究所と共同研究について調整中である。 ・リスク解析の結果を衛生行政に反映させることで、県民の健康的な生活に資することができる。
事前評価	紅斑熱群リケッチアの浸潤状況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点を十分吟味して設定することが望まれる。 ・本感染症の重症度・地域性を考慮すると、千葉県が本研究を行う必然性と責任があることから、十分な成果を期待する。一方で、この研究を通して構築された定点およびネットワークも大きな財産となる点も十分考慮すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点については現時点で設定している地点もあるが、今後の追加地点設定の際も十分に吟味して設定していきたい。 ・本研究で得られたネットワークとその構築のノウハウについては他調査等への応用も視野に入れ、更なる安心と安全の提供に活かしていきたい。
事前評価	LC/MS/MSによる加工食品中のグリホサート分析法の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県のニーズに合うという視点に留意しつつ計画を調整し、加工食品中のグリホサート分析法 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリホサートは一斉分析が出来ず、分析法も簡便ではないといわれている。現在、加工食品の様々な残留

		<p>の確立を目指した研究結果を期待したい。更に、その結果が国レベルあるいは普遍的に貢献する結果であれば、期待以上の結果と言えることから、単に千葉県の施設を使用した場合のみ、あるいはグリホサートのみ結果に留まらないよう期待する。</p>	<p>農薬等の分析法の開発が望まれており、グリホサートについても LC/MS/MS による広範囲の食品に適用できる分析法を確立することにより、今後の食の安全のモニタリング調査に寄与できると考えている。LC/MS/MS による分析法は、他の農薬に対しても適用可能と思慮されることから、分析法の検討に進展させたい。</p>
事後評価	<p>口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制やメタボリックシンドローム改善との関係についての研究</p>	<p>・メタボリックシンドロームに対する咀嚼との関連のアプローチを行う上で、特定健診、歯周疾患検診、国民健康・栄養調査の利用可能性について明らかにした研究であり、千葉県の特徴を生かした施策への反映および研究の発展が期待される。</p>	<p>・今回の研究結果を受けて、施策的には口腔ケア指導と特定健診との協調、研究的には介入研究を視野に入れつつ、今後の方向性を考えていく。</p>

事後評価	健康食品中の医薬品成分分析法の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品成分一斉分析法として先端の研究結果が得られ、また迅速化により行政対応の効率に大いに寄与しうる研究結果である。また、将来、他施設でも用いることができる方法であることから波及効果も十分期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も対象成分を増やし、本分析法を発展させていきたい。
事後評価	加工食品における有害化学物質検査法の検討ーグリホサート等	<ul style="list-style-type: none"> ・発展性があるので今後の展開に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ簡便で広範囲の食品に適用可能な分析手法の確立をめざし、今後、より優れたLC/MS/MSに装置を換えて、さらに精度の高いグリホサート分析法の確立に進展させたい。

2 課題評価結果対応方針

(1) 事前評価

< 課題評価結果対応票 >

研究課題名	腸管出血性大腸菌 O157 の系統学的解析による動態の把握	
研究期間	平成 25 年度～平成 27 年度	
評価項目	所見事項	対応方針
1. 研究の必要性や重要性 ② 研究課題の必要性 ③ 県の政策等との関連性・政策等への活用性	① 県民のニーズから必要性を説明すること。 ② この調査を行うことの意義について、どのようにして対策に結びつけるかまできちんと考慮する必要がある。	① 感染者数や致死率から県民が非常に憂慮している腸管出血性大腸菌 O157 (以下、「O157」) について効果的な対策を講じることは、県民の安全な生活にとって重要である。 ② 系統学的分類 (clade 等) をマーカーにした O157 の分布状況の長期的調査を基に、発生動向予測や感染源のリスク解析を行い、県の健康危機管理対策に活かすことができる。
2. 研究計画の妥当性 ① 計画内容の妥当性	③ リスク評価を行うためには、病原体の解析とともに、それがヒト患者から分離されたものであれば感染経路などの疫学的な調査結果も同時に解析する必要がある。	③ O157 の系統群と病原性の関連性については未だ不明なことが多い。本研究では、lineage 解析等により O157 を系統群に分類した後、患者情報 (症状等) を照らし合わせることで、系統群の病原性が更に明らかとなり、特定の系統群が蔓延した時のリスク評価が可能となる。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他府県との共同研究をどう進めるかが鍵となる。 ・ 研究成果を県民に還元する手段についても十分に検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、幾つかの他県の地方衛生研究所と共同研究について調整中である。 ・ リスク解析の結果を衛生行政に反映させることで、県民の健康的な生活に資することができる。

＜課題評価結果対応票＞

研究課題名	紅斑熱群リケッチアの浸潤状況調査	
研究期間	平成25年度～平成27年度	
評価項目	所見事項	対応方針
1. 研究の必要性や重要性 ① 研究課題の必要性 ④ 研究課題の社会的・経済的効果	① 野生動物とイヌへの浸潤状況の調査計画は評価できる。しかし、両者の関係性を示すデータを示すためには周到な計画を立てる必要がある。 ② 侵淫地域などが評価できれば、感染防止に有用である一方、観光地にとっては Negative impact にもなりうるため、結果をどのように公表して、対策に結びつけていくかの道筋を考えておく必要がある。	① ダニ、野生動物、野犬の地域的な存在の重なりと、地域採材ダニおよび野生動物、イヌ体表から採取したダニからのリケッチアの検出、野生動物とイヌからの抗リケッチア抗体の検出により関係性を示すことが出来ると考える。 ② 感染リスクを明らかとし、診断法・治療法を県内の各医療機関にしっかりと把握してもらえれば、万が一感染したとしても「千葉県では適切な医療を受けることが出来る」という状況を作ることが出来ると考える。そのためにリスクの啓発と同時に医療機関への情報提供を行い、適切な治療により治る病気であることを浸透させたい。
2. 研究計画の妥当性 ① 計画内容の妥当性	③ 定点とサーベイランスのネットワーク構築についても十分に検討すること。	③ 日本紅斑熱発生地域については、すでにダニ採材定点を設置しており、同地域の動物病院についても協力を要請する予定である。

総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点を十分吟味して設定することが望まれる。 ・本感染症の重症度・地域性を考慮すると、千葉県が本研究を行う必然性と責任があることから、十分な成果を期待する。一方で、この研究を通して構築された定点およびネットワークも大きな財産となる点も十分考慮すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点については現時点で設定している地点もあるが、今後の追加地点設定の際も十分に吟味して設定していきたい。 ・本研究で得られたネットワークとその構築のノウハウについては他調査等への応用も視野に入れ、更なる安心と安全の提供に活かしていきたい。
------	---	---

＜課題評価結果対応票＞

研究課題名	LC/MS/MS による加工食品中のグリホサート分析法の確立	
研究期間	平成25年度～平成26年度	
評価項目	所見事項	対応方針
3. 研究成果の波及効果及び発展性	<p>①食の安全安心に及ぼす効果は大きいと考えられるが、現在これらの除草剤を使用している場所、ゴルフ場や農場などへの影響も考慮していくことが必要である。</p>	<p>①グリホサートの分析法を確立することにより、食の安全確保に寄与することはもとより、本県に多いゴルフ場や農場などが使用している農薬の地下水に対するモニタリング調査などに活用できるものとする。</p>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県のニーズに合うという視点に留意しつつ計画を調整し、加工食品中のグリホサート分析法の 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリホサートは一斉分析が出来ず、分析法も簡便ではないといわれている。現在、加工食品の様々な残留農薬等の分析法の開発が望

	<p>確立を目指した研究結果を期待したい。更に、その結果が国レベルあるいは普遍的に貢献する結果であれば、期待以上の結果と言えることから、単に千葉県施設の施設を使用した場合のみ、あるいはグリホサートのみの結果に留まらないよう期待する。</p>	<p>まれており、グリホサートについても LC/MS/MS による広範囲の食品に適用できる分析法を確立することにより、今後の食の安全のモニタリング調査に寄与できると考えている。LC/MS/MS による分析法は、他の農薬に対しても適用可能と思慮されることから、分析法の検討に進展させたい。</p>
--	--	---

(2) 事後評価

< 課題評価結果対応票 >

<p>研究課題名</p>	<p>口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制やメタボリックシンドローム改善との関係についての研究</p>	
<p>研究期間</p>	<p>平成21年度～平成23年度</p>	
<p>評価項目</p>	<p>所見事項</p>	<p>対応方針</p>
<p>2. 研究計画の妥当性 ① 計画内容の妥当性</p>	<p>① 咀嚼とメタボリックシンドロームとの関連を検討し、早食いと肥満との関連を示せたことはその一歩として評価できる。次のステップとして、早食いの要因、例えばストレス、時間的余裕等を把握検討する必要がある。</p>	<p>① 次の研究において考慮したい。ただ、ストレスや時間的余裕等を網羅的に把握する質問紙は負荷が高いため、多数に実施することは困難であることから、情報提供による食行動の変化を把握する介入研究から開始し、変化し難いケースの質的研究を通じたアプローチを企図している。</p>

	<p>②検診、健診、指導間のリンケージが見られないという結果に基づき具体的提言を示すべきではないか。担当研究者が示唆しているが、肥満、糖尿病教室等に口腔衛生を取り入れることや、健康相談における検診結果の総合的活用など実現可能性の高いものが考えられる。</p>	<p>②研究者の立場で、研究からの考察としては、示唆に留めたものである。県職員の立場で、担当課（健康づくり支援課）に具体的な提言をしており、市町村担当職員研修会等を通じて、情報提供するとともに、支援する準備があることも伝える予定である。</p>
<p>2. 研究目標の達成度、研究成果の波及効果及び発展性</p>	<p>③今回の調査結果を今後どのように活かしていくかによって、本研究の効果も左右されると思われるため、本研究の今後の方向性を考えていくことが重要である。</p>	<p>③論文文化して千葉県衛生研究所報（2011;60:47-52 と 61-64）に掲載した。介入研究を計画し、千葉県健康福祉部疫学倫理審査を受け（受付番号 28、2012年12月10日承認）、ちば県民保健予防財団の研究費を受けて、開始した。</p>
<p>総合評価</p>	<p>・メタボリックシンドロームに対する咀嚼との関連のアプローチを行う上で、特定健診、歯周疾患検診、国民健康・栄養調査の利用可能性について明らかにした研究であり、千葉県の特徴を生かした施策への反映および研究の発展が期待される。</p>	<p>・今回の研究結果を受けて、施策的には口腔ケア指導と特定健診との協調、研究的には介入研究を視野に入れつつ、今後の方向性を考えていく。</p>

＜課題評価結果対応票＞

研究課題名	健康食品中の医薬品成分分析法の検討	
研究期間	平成22年度～平成23年度	
評価項目	所見事項	対応方針
2. 研究目標の達成度、研究成果の波及効果及び発展性	<p>① 検出可能な成分種数を156種に増やしたことで、測定時間を65分から12分へ短縮できたことは高く評価できる。波及効果を高めるために今後信頼性が高いことを示すデータを提示することが期待される。</p> <p>② 本研究によって確立された迅速一斉分析法の優位性を具体的に他施設等と比較してアピールすること。</p>	<p>① 無承認無許可医薬品取締事の検査において、今回構築した分析法を用い検査を行い、データを蓄積していく。また、分析可能な成分を増やした上で、その検査結果等をまとめ、衛生研究所年報等で報告していきたい。</p> <p>② 各施設で所有している機器が異なるため、単に比較することは困難と思われるが、本分析法により短時間での一斉分析が可能となったことから、他施設に対して学会等でアピールをしていきたい。</p>
総合評価	<p>・ 医薬品成分一斉分析法として先端の研究結果が得られ、また迅速化により行政対応の効率に大いに寄与しうる研究結果である。また、将来、他施設でも用いることができる方法であることから波及効果も十分期待できる。</p>	<p>・ 今後も対象成分を増やし、本分析法を発展させていきたい。</p>

＜課題評価結果対応票＞

研究課題名	加工食品における有害化学物質検査法の検討ーグリホサート等ー	
研究期間	平成22年度～平成23年度	
評価項目	所見事項	対応方針
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発展性があるので今後の展開に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ簡便で広範囲の食品に適用可能な分析手法の確立をめざし、今後、より優れたLC/MS/MSに装置を換えて、さらに精度の高いグリホサート分析法の確立に進展させたい。